

令和 6 年 8 月 14 日

各 位

三神地域農業指導者連絡会作物部会
三神 農 業 振 興 セ ン タ ー

「稲・大豆作情報（第 7 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり送付しますので、業務の参考にして下さい。

1. 気象概況（アメダス観測地：佐賀）

【半旬ごとの気象データ】

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 ℃	平年 ℃	本年 mm	平年 mm	本年 hr	平年 hr
7月	4	28.6	27.6	32.8	32.1	25.6	24.3	11	44	22.4	28.8
	5	30.9	28.2	36.1	33.4	27.9	24.7	1	36	54.8	32.0
	6	30.9	28.6	36.1	33.4	26.7	25.0	0	39	68.9	41.1
8月	1	31.7	28.8	37.1	33.7	27.6	25.1	4	31	47.5	35.0
	2	31.2	28.7	36.9	33.6	26.3	25.1	0	33	55.9	34.2

【8月 6 日～12 日の気象概況】（平年と比較して）

気 温：平均気温は 2.1℃高かった。

降 水 量：期間中は降雨がなかった。

日照時間：平年比 163%と長かった。

2. 管内の生育概況

- ・「夢しずく」で出穂期を迎えている。
- ・中晩生品種では「さがびより」で幼穂形成期頃となっており、「ヒヨクモチ」でもまもなく幼穂形成期を迎える。

3. 情報田生育調査結果（8月13日現在）

（調査結果）

品種名	夢しずく	さがびより	ヒヨクモチ
草丈（cm）	出穂期	81.1	75.9
平年値（平年比）	8/8（-3）	80.6(101)	74.5(102)
茎数（本/m ² ）	止葉葉位	512	694
平年値（平年比）	13.7	422(121)	646(107)
葉齢（L）	止葉葉色	13.6	14.2
平年値（平年差）	38.9	13.5(+0.1)	13.8(+0.4)
葉色（SPAD値）		38.6	40.8
平年値（平年差）		38.1(+0.5)	37.5(+3.3)

概況

生育

草丈：「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」はやや高い。

茎数：「さがびより」「ヒヨクモチ」は多い。

葉齢から見た生育の早遅：

「さがびより」は平年並み。「ヒヨクモチ」はやや進んでいる。

葉色（SPAD値）：「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は高い。

主幹の幼穂長：「さがびより」約4mm、「ヒヨクモチ」0～0.5mm

注1)「夢しずく、さがびより」の平年値は、過去7ヶ年のうち収量が最高値と最低値の年を除いた5ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。「ヒヨクモチ」の平年値はH28～R5のうち欠損したR1,2を除く6ヶ年のデータを当年調査日に換算した平均値。

注2)ラウンドの都合で小数点以下が一致しない場合がある。

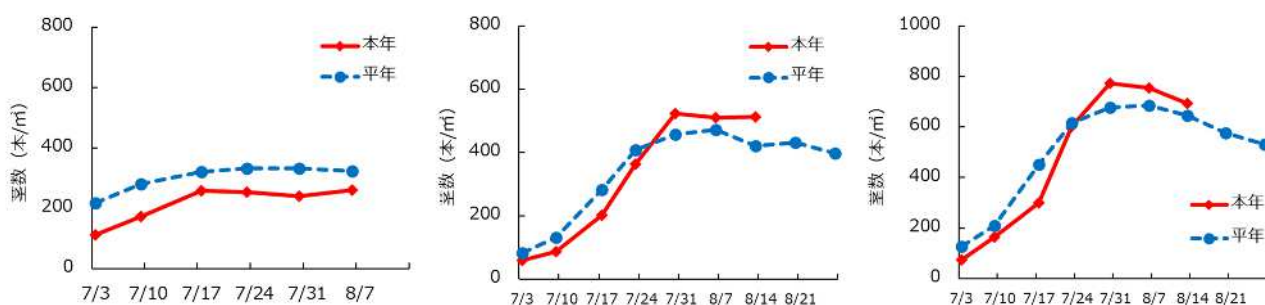


図 面積あたり茎数の推移（左：夢しずく、中：さがびより、右：ヒヨクモチ）

移植日	項目	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年と比較して)
	品種						
6月18日	夢しずく	本年	100.3	360	13.5	37.8	[気象] 8月6日～8月12日まで ◆平均気温…平年より2.1℃高い(30.8℃) ◆日照時間…長い(平年比163%) ◆降水量…極端に少ない(平年比0%) [生育] ◆草丈 全ての品種で高い。 ◆茎数 「夢しずく」は少なく、「ヒノヒカリ」「さがびより」は平年並み、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」はやや進んでおり、「さがびより」は平年並み。 ◆葉色 「夢しずく」「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は平年並み、「さがびより」はやや濃い。
		平年	90.2	395	13.3	36.9	
		平年比(差)	111	91	+0.2	+0.9	
	ヒノヒカリ	本年	88.5	484	13.9	37.6	
平年		82.4	481	13.4	37.1		
平年比(差)		107	101	+0.5	+0.5		
6月20日	さがびより	本年	86.1	482	13.5	37.6	
		平年	78.2	479	13.6	35.7	
		平年比(差)	110	101	-0.1	+1.9	
	ヒヨクモチ	本年	77.0	671	14.0	35.4	
平年		71.5	623	13.8	35.8		
平年比(差)		108	108	+0.2	-0.4		
留意点	○ 「夢しずく」は、出穂はじめてである。 ○ 「さがびより」穂肥の時期となっている。「ヒヨクモチ」は間もなく穂肥時期を迎える。 (主茎幼穂長:「さがびより」4.7mm、「ヒヨクモチ」0.8mm) ○ 「ヒノヒカリ」「さがびより」「ヒヨクモチ」で紋枯病の初発を確認した。						

4. 普通期水稻の今後の管理について (8月14日～)

(1) 水管理

- ・「ヒヨクモチ」を除くすべての品種で幼穂形成～出穂期となっており、「ヒヨクモチ」でもまもなく幼穂形成期を迎える。
- ・穂揃期頃までは水の要求度が高いことから、強い水分ストレスを与えないよう間断灌水を実施し、湿潤状態を保つ。

(2) 施肥

① 「さがびより」穂肥

- ・必ず「穂肥診断(草丈・葉色・幼穂長の確認)」を実施し、下表を参考に施用時期が遅れないように穂肥を施用する。
- ※隣接圃場が「ヒヨクモチ」だと葉色が著しく淡く見えるので留意する。

② 「ヒヨクモチ」穂肥Ⅰ、Ⅱ

- ・分施の場合、各地区の栽培暦(表2)を参考に穂肥及び実肥を施用する。
- ・元肥に一発肥料を施用した圃場において、穂肥Ⅰ～Ⅱの時期に葉色がさめた(SPAD値40以下)場合は、BB602を10kg/10a施用する。

表 1. さがびよりの穂肥診断基準

幼穂形成初期 の草丈	葉色		施用時期 [※]		穂肥施用量 (kg/10a)	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分量	BB602現物量
75cm以下	3.0以下	34以下	20~18日	5 mm	2.5	15
	3.0~3.5	34~38	18日	10 mm	1.6	10
	3.5~3.8	38~39	16日	15 mm	1.2	7.5
	3.8以上	39以上	施用しない			
75~80cm	3.2以下	36以下	16~18日	10~15 mm	1.6	10
	3.3以上	37以上	施用しない			
80cm以上	原則として施用しない					

※ 早くても幼穂長が 5mm になっていることを確認して穂肥を施用する。

※ 幼穂長が15mm以上になっている圃場では、食味低下が懸念されるため穂肥は施用しない。

表 2. ヒヨクモチの穂肥等基準

(現物量kg/10a)

地区	肥料名	穂肥 I	穂肥 II	実肥
		8/14~16頃 (幼穂形成期)	8/22~26頃 (穂肥 I の10日後)	9/8~10頃 (穂揃期)
JAさが	LPBB804	35~45	—	—
東部	BB602	25	10	10
JAさが	LPBB804	30	—	—
神埼	BB602	25	15	—

(3) 病虫害防除

- ・「病虫害発生予察情報第 4 号 (7/26 発表) による主な病虫害の 8 月予報は以下のとおり。
- ・各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

① トビイロウンカ・・・やや多い

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおり。防除適期となっている。
- ・防除実施後も各圃場での発生状況に注意し、発生がみられる場合には臨機防除を実施する。

※ 本年は多発生条件となっており、今後急増する場合もあるため、圃場毎の発生状況に注意し、適期防除に努める。防除適期は幼虫ふ化揃い期。

② コブノメイガ・・・やや多い

- ・主要な飛来時期及び発生予測は下図のとおり。防除適期となっている。
- ・止葉を含む上位 3 葉に被害が出ると減収につながるため、圃場毎の発生状況を確認し、適期防除に努める。防除適期は幼虫ふ化揃い期 (発蛾最盛期の 7 日後)。

③ 紋枯れ病・・・やや多い

- ・管内でも一部圃場で発生がみられる。
- ・病斑を確認した場合は、病斑が上位葉の葉鞘に進展 (垂直進展) する時期に防除を検討する。(液剤・粉剤の場合は、出穂の 10~20 日間を目安)

④斑点米カメムシ類・・・やや多い

- ・ 耕種的な防除として、畦畔除草を出穂 10 日前までに行う。
- ・ 乳熟期（穂揃い期の約 10 日後）を中心に農薬防除を行い、多発生の場合はその 7~10 日後に 2 回目防除を行う。
- ・ 防除はカメムシが穂に上ってくる夕方に行うと効果が高い。

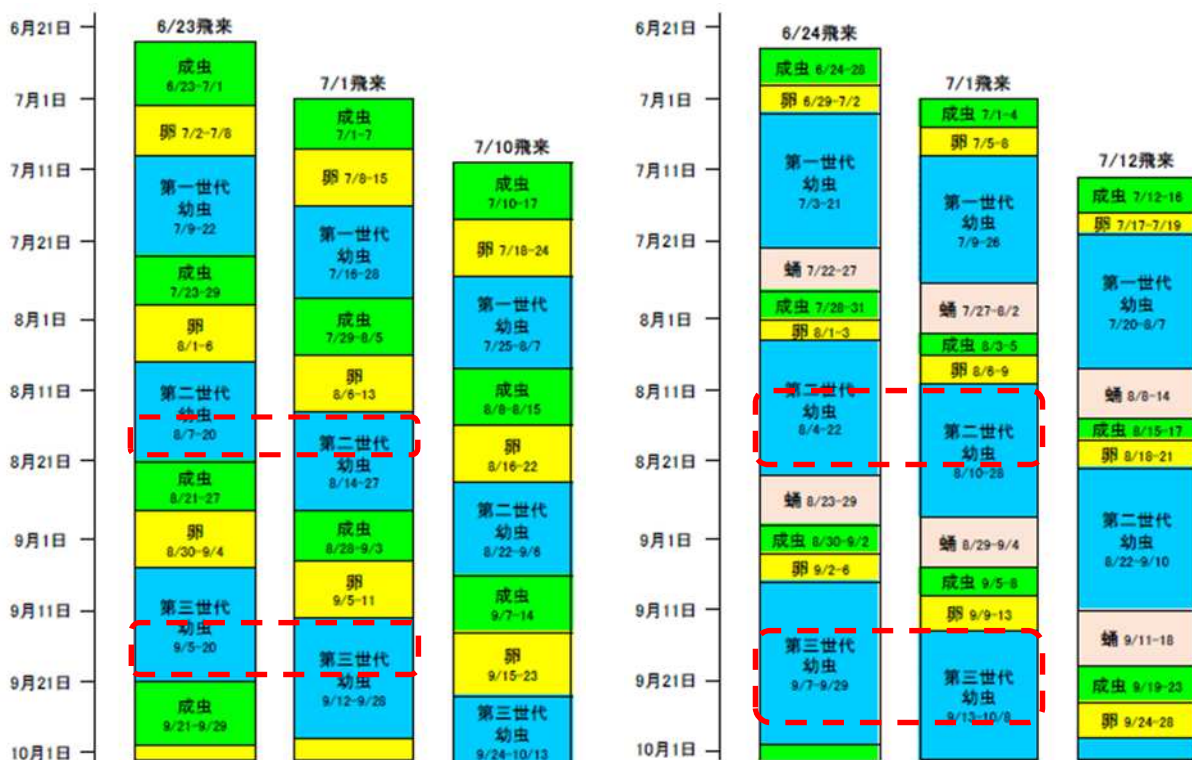


図 各世代の発生予測（左：トビイロウンカ、右：コブノメイガ）
第 2 版 2024 年 7 月 19 日公表

- ・ 今後の飛来状況や圃場条件（移植時期・品種・防除・周辺環境など）によって発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。
- ・ 今後、発生予測は随時更新されるため、防除の考え方等については、最新情報を農業技術防除センターのホームページで確認し、適期防除に努める。

[佐賀県 農業技術防除センター](#)

5. 大豆の今後の管理について

7 月上旬に播種された圃場では、本葉 8~9 葉期となっている。
7 月 20 日頃に播種された圃場では、本葉 5~6 葉期となっている。
7 月 25 日以降に播種され、出芽の遅れた圃場では生育の停滞や萎れた個体がみられる。
高温乾燥条件が続き土壌の乾燥が進んでいるため、暗渠排水の栓を閉めるなどして土壌水分の確保を図る。

(1) 今後の天候

- ・ 九州北部地方の 1 ヶ月予報では、気温はかなり高く、降水量は平年並みか少なく、日照時間は多い予報である。

参考) 週間天気予報 (佐賀県: 8月13日17時発表)

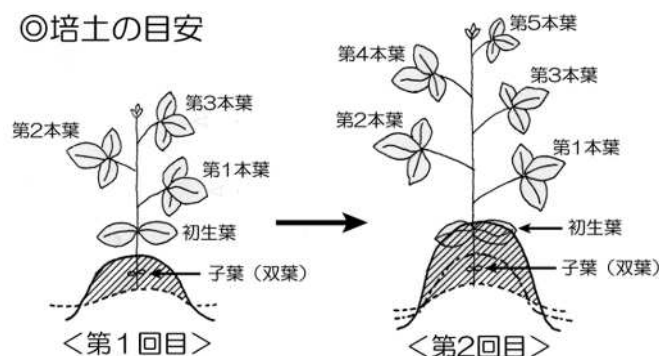
今夜 13日(火)	明日 14日(水)	明後日 15日(木)	16日(金)	17日(土)	18日(日)	19日(月)	20日(火)
晴後曇	晴後曇	晴時々曇	曇時々晴	晴時々曇	曇時々晴	曇	曇一時雨
							
-/-/20	10/10/30/30	30	30	20	30	40	50

(2) 中耕・培土

- ・本葉が3枚開いているのを確認したら、子葉が隠れる程度まで1回目の培土を行う。
- ・本葉が5枚開いているのを確認したら、初生葉(子葉の上の葉)が隠れる程度まで2回目の培土を行う。

※本年は高温、少雨の影響で圃場が干ばつ傾向となっている。気温が高い日中に中耕すると土壤水分の蒸散を助長し、乾燥害を生じる恐れがあるため、作業は夕方以降が望ましい。

◎培土の目安



(3) 干ばつ対策

- ・梅雨明け後、降雨がほとんど見られず圃場の土壤が乾燥しており、大豆が萎れ始めている圃場が散見される。このような圃場では、夕方以降にうね間灌水を検討する。
- ・今後も降雨が少ない見込みのため、コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。



大豆生育期間中に必要な水量

乾燥し大豆が萎れ始めた圃場

(4) 雑草防除

- ・雑草の発生が多い圃場では、中耕培土後に雑草の発生に応じて生育期の茎葉処理剤を散布する。
- ・イネ科の雑草が多い場合はポルトフロアブル、ナブ乳剤、セレクト乳剤等。
- ・広葉の雑草が多い場合は大豆バサグラン、アタックショット乳剤等。大豆2葉期～開花前まで。
- ・アサガオ類、ホオズキ類の難防除雑草が多い地域では、圃場内侵入防止に努める。また、圃場内に発生している場合は、発生が少ないうちに雑草の開花や結実前までに茎葉処理剤のスポット散布や手取りによる徹底防除を行う。

(5) 病虫害防除

- ・「病虫害発生予察情報第5号(8/7発表)による主な病虫害の8月下旬予報は以下のとおり。
- ・各圃場での発生状況に注意し、適切な防除を行う。

①ハスモンヨトウ・・・やや多い

- ・気象庁の1ヶ月予報では「気温は高く、降水量は平年並みか少ない」とされており、多発生の条件となっている。
- ・防除適期は、若齢幼虫による白変葉が見られ始めた頃であり、防除が遅れ中齢幼虫以上(体調約2cm以上)になると防除効果が低下する。
- ・防除後約3日経過した後も高い密度で食害を続けている場合は再防除が必要。

②カメムシ類・・・やや多い

- ・気象庁の1ヶ月予報では「気温は高い」とされており、多発生の条件となっている。
- ・防除適期は、莢の伸長初期から子実肥大中期である。

③オオタバコガ・ウワバ類

- ・近年発生が多くみられる。本年はハスモンヨトウと同様に多発生の条件となっている。
- ・ハスモンヨトウによる白変葉と異なり、葉に穴が開くように食害されている場合は、オオタバコガ等の虫害と考えられる。
- ・オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボンの感受性が低下しているため、使用を避ける。



ハスモンヨトウ



オオタバコガ



シロイチモジヨトウ

令和6年産 水稻生育期間気象グラフ

(アメダス観測地点：佐賀，データ更新日：8月10日)

三神農業振興センター

